

e-Learning Newsletter



contents

- ◆ 新センター長あいさつ
「多様な学びを支援するシステム、人、組織への眼差し」
- ◆ eALPS利用状況のご報告 ～2025年度～

Information

- ◎ 「eALPS研修会（入門編）2026」開催報告

e-Learningセンターは、2026年4月の改組により、教育基盤構築センターe-Learning部門となりました。新センター長に迎えた西一夫副学長の挨拶をおもて面に掲載しています。また「e-Learningセンター」は、引き続き通称として使ってまいります。

裏面には、2025年度のeALPS利用状況と、eALPS研修会（2026）入門編の開催の報告を掲載しています。

多様な学びを支援するシステム、人、組織への眼差し

このたび教育基盤構築センター長を拝命しました、副学長（教育、附属学校担当）の西です。

私が専門とする研究領域は、一つは奈良時代から平安初期にかけての和歌や漢文書簡の表現分析にあり、いま一つは百年程前に中国の敦煌莫高窟で発見された「敦煌文書」に残る手紙の書き方本（書儀という）の形式や表現の分析研究と日本への受容実態の解明とにあります。

40年ほど前に研究課題への見通しを持った頃、デジタル機器との交渉は全く感じられない世界でした。眼前には紙焼き資料や冊子の目録、冊子の索引を駆使しながら表現の用例をひとつひとつ集め、その傾向を分析する作業の毎日でした。加えて考古学の出土物に残る文字資料も取り込んで研究領域の拡充をしてきました。これまたかつての奈良国立文化財研究所が刊行する出土物速報なる資料を手元に置くことが大切な作業の始まりでした。これらの資料群や作業は、現在デジタル機器を活用したデータベースの整備や検索サイトの充実、さらには世界各地に散在する貴重な文献を高画質のデジタル画像としてほぼ無料で閲覧が可能になりました。



教育基盤構築センター長 西一夫

時代の変化は日夜を問わず加速しています。このように感じるのは単に私が心身の老いを感じているからだけではなく、加速度的に上昇し続けている現実があることも要因なのでしょう。まさに「文明の利器」と称し得る発展を遂げています。多くの時間を要した調べる時間は、必要と考えられる情報をキーボードで打ち込んでキーを押せば、膨大な検索結果を瞬時に入手できます。それを生成AIに読み込ませれば、おおよその考察まで仕上げてくれるのです。「文明の利器」を使いこなしているように見えながら、我々は使われてもいない、考察もしないという状況なのではないでしょうか。

閑話休題。本学のe-Learningシステム「eALPS」は「たこ足キャンパス」である本学学生の学修活動を支援しています。私も現在共通教育科目として「古典文学の恋愛裏事情」というOnline授業を開講しています。かつては対面による授業を基本として、紙資料を用いる授業デザインをしてきました。現在では各授業回で取り上げる古典作品に関する動画資料や映像資料を用いることで視覚的にも古典の世界に導くことができるようになりました。また和歌の披講の音声資料も掲載することで和歌が詠まれる実際の、音声資料を通して体感することができるようになりました。

学生との交流も取りこぼしを防ぐことができました。振り返りの提出やレポートの作成・提出も全てシステム上で行っています。これらを活用することで振り返りやレポートに対するコメントと提出物とが手元に残る利点があります。これまでは返却してしまえば、学生の学びの変容や定着がしっかりと捉えることができませんでしたが、双方にデータが残ることで学生の学びを的確に把握することができます。これまでは点数に変換された評価値のみで最終評価をしてきましたが、半期の授業を通して学生の学びを具体物による変容・定着によって評価が可能となりました。

eALPSにはさまざまな機能が搭載されており、遠隔キャンパスを繋いだシステムとして、教育活動の基盤を支えています。システムにエラーが生じることもあります。日々のメンテナンスに担当者は従事していますので、そうした学修を支える教職員への眼差しも忘れずに持ち続けてください。

eALPS利用状況のご報告 ～2025年度～

eALPSの利用状況の推移をご報告します。

表1は2019年度以降のeALPSへのアクセス数の集計、図1は日毎のログインユーザ数、図2は時間帯別のアクセス数で、学内からと学外からを分けて集計しています。

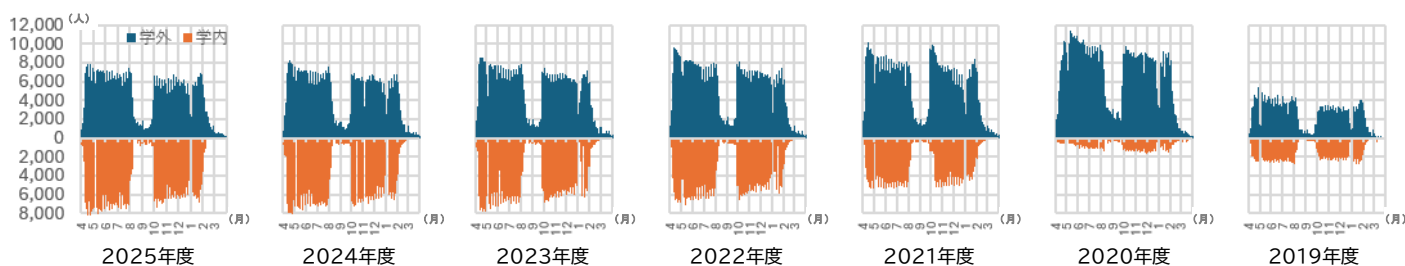
2020年度からコロナ禍による授業スタイルの変革に伴いアクセス数・ログイン数は急増しましたが、通常授業の再開後もコロナ前の状態には戻らず利用率が高い状態にあります。eALPSを積極的に用いる授業スタイルへ移行しているものと思われます。

また、アクセス数の総数は一度減少したものの増加に転じ、学内からのアクセスは増加が顕著になってきました。時間帯別アクセス状況から、授業時間内もしくは空きコマでの学内からのeALPSの利用が高くなっています。これもeALPSの利用形態が変わってきていることを示唆しているものと思われます。

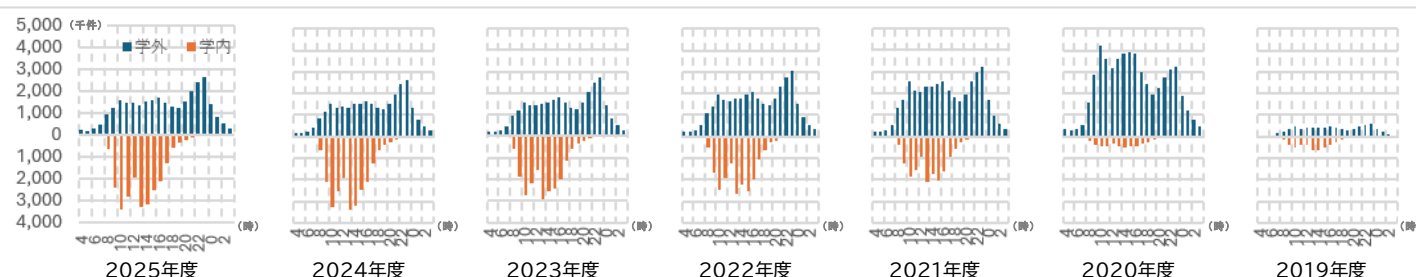
このような統計情報を元に、eALPSの安定運用に努めてまいります。

【表1 アクセス数(件)】

	2025	2024	2023	2022	2021	2020	2019
学外	29,077,045	28,917,219	30,250,071	34,431,850	40,329,320	55,231,914	7,786,383
学内	25,314,714	24,557,059	21,411,388	19,491,365	15,678,451	4,551,949	4,684,489
合計	54,391,759	53,474,278	51,661,459	53,923,215	56,007,771	59,783,863	12,470,872



【図1 日毎ログインユーザ数】



【図2 時間帯別アクセス数】

Information

「eALPS研修会（入門編）2026」開催報告 2026年4月7日開催

新年度を迎え、新たにeALPSを利用する教職員の皆さまを対象に研修会を開催しました。対面会場に13名、オンライン（ZOOM）に25名の皆さまにご参加いただきました。

eALPSの基本的な機能や操作方法、e-Learningセンターへ連絡が必要な事例やその際の注意点など、eALPSを利用するための様々な情報を提供をしました。

研修会の様子は、紹介した資料とともに、eALPS教職員サイト「eALPSガイド（入門編）2026」コースでオンデマンド配信しています。

OeALPS教職員サイト「eALPSガイド（入門編）2026」URL
<https://fdsd.ealps.shinshu-u.ac.jp/fdsd/course/view.php?id=60>
 コースの利用には、自己登録が必要です。



松本キャンパス会場の様子



e-Learning Newsletters 2026年7月号 No. 53 発行：2026年7月

発行・編集：教育基盤構築センター e-Learning部門（事務担当：学務部学務課）

e-mail：elearning@shinshu-u.ac.jp 公式X：https://x.com/eALPS